

皆出席表彰

内畑 瑛造さん 笹島 良雄さん



おめでとうございます!

社会奉仕事業

こばと学園年末「餅つき大会」

青少年奉仕委員長 赤井 雅哉

12月13日(土)雨も心配されましたが、当日はすっかり晴れて餅つき大会は学園の広場で盛大に実施されました。

近隣の皆様、ボランティアの方々等沢山の皆さんが参加応援して頂いて、にぎやかに盛り上がりました。

児童たちは餅つきを手伝い、それぞれ晴れやかに楽しく食べながら楽しみ、良い時間でした。

当クラブからも多くの会員の参加があり有難く感謝申し上げます。



(参加者) 敬称略
山本 進三、吉田 篤生、櫻畑 友洋、赤井 雅哉、村田 昌之、笹島 良雄、乾 敦雄、林 毅、細川 竜二

ニコニコ箱

ありがとうございました

中江 遵義さん 三谷先生、今日はよろしくお申し上げます。
松田 洪毅さん 三谷先生には大変お世話になりました。本日はよろしくお願いいたします。
中山 恒夫さん 三谷隆彦先生、本日の卓話よろしくお願いいたします。
山本 進三さん 三谷先生、本日の卓話よろしくお願いいたします。
吉田 篤生さん 三谷先生、本日はよろしくお願いいたします。フルーツの活用は和歌山のチャンスだと考えています。

亀田 直紀さん ご協力いただいた方々ありがとうございます。
阪神タイガース応援団一同
〔皆出席表彰〕
内畑 瑛造さん 皆出席出来ましたのも家族始め皆様のお蔭です。これからも健康に留意して頑張りたいと思います。
笹島 良雄さん 健康寿命を続ける事が出来て幸せに感じます。

本日の累計 33,500円(計8名 9件) [お誕生日お祝い 215,000円 皆出席表彰 25,000円 その他 686,200円 累計額 926,200円]

本日の例会 12月20日(土)P.M.6:30~ 於 ダイワロイネットホテル和歌山4F

■クリスマス家族会

■ピアノ演奏

ザ・クリスマス・ソング(M.Torme)
聖夜(J.S.Dwight)

中井 利枝さん

次回の例会 12月25日(木)

■卓話

日本高等学校野球連盟事務局長 竹中 雅彦さん

前回の例会 12月11日(木)

■卓話「フルーツバレーへの道(和歌山県の果物の現状と課題)」

和歌山大学 産学連携・研究支援センター
食品科学寄附研究部門 特任教授 三谷 隆彦さん

■ロータリーソング

「四つのテスト」「旅愁」

内畑 瑛造 ソング委員長

■メイキャップ

11月24日(月) 海南東R.C. 上中 崇司

敬称略

出席報告

会員数 42名(内出席規定適用免除会員14名)
出席報告 山東 勝彦 出席副委員長

12月11日(本 日)	32名/38名	84.2%
11月27日(メイキャップ後)	27名/33名	81.8%

皆さん、出席してください。



良くしよう! ~ improve our Rotary! ~ 今できることを精一杯

2014~2015年度
和歌山東ロータリーのテーマ

2014年12月20日(土)
週報/VOL.56 No.23
(通巻2663)

「ロータリーに輝きを」LIGHT UP ROTARY

2014~2015年度
国際ロータリーのテーマ

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ URL: http://www.werc.jp E-mail: info@werc.jp

会長報告

山本 進三 会長



皆さんこんにちは。

本日はノーベル賞の授賞式でした。

テレビの報道で印象的だったのは、受賞者の一人 天野教授が受け取ったメダルの感想を聞かれて、「ただの金属ですから」とぶっきらぼうに答えていたのが印象的でした。

地位や名誉に拘らず、夢を実現するため研究に没頭する一流の科学者はやはり違いますね。

ノーベル賞は、物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、平和賞、経済学賞の全6部門あります。それぞれの賞に選ばれる人は各部門において素晴らしい成果を上げ社会に貢献した方ばかりですが、平和賞だけは他の部門と違って何か判断基準が曖昧で、政治的な要素が加わったりトレンドで決めているように思えてなりません。

さて、本日はゲストに和歌山大学 産学連携・研究支援センター食品科学寄附研究部門 特任教授 三谷隆彦様にお越しいただいています。

あまり知られていませんが、和歌山県が果物の生産が全国2位のフルーツ大国でありまして、主立ったもので全国1位が温州ミカン、梅、柿、はっさく、三宝柑、じゃばら、2位がイチジク、清見オレンジ、3位がデコボン、キウイ、スモモ、レモン、4位が桃、スダチ、5位キンカン、6位ポンカン、びわ、7位柚子、8位マンゴーなど多種多様な果物が生産されています。

ちなみに全国1位の生産県は青森ですが、青森は殆どがリンゴ種の生産に偏ってしまっていて、和歌山県のようなバラエティがある訳ではないようです。

その様な現状をふまえ、教授は和歌山大学に農学部を設置することを提案しています。

後ほど卓話で詳しいお話を伺えるかと思えます。

本日もよろしくお祈りいたします。

幹事報告

吉田 篤生 幹事



- ・ボーイスカウト和歌山地区協議会より、2015年カレンダーをいただいています。…………… 回覧
- ・一般財団法人比国育英会バギオ基金より、2013-2014年度事業報告書が届いております。…………… 回覧
- ・厚生保護サポートセンター和歌山より、会報が届いております。…………… 回覧

卓話

「フルーツバレーへの道(和歌山県の果物の現状と課題)」

和歌山大学 産学連携・研究支援センター食品科学寄附研究部門 特任教授 三谷 隆彦さん



和歌山県は全国有数の果物生産県で、みかん、梅、柿、桃、八朔、キウイフルーツなど多種多様な高品質の果物を、京阪神をはじめとして全国に送り出してきた。その栽培技術は非常に優れたものであることは言うまでもない。近年、日本人の食生活のスタイルの変化に伴い、果物の消費が減少してきており、和歌山県の果樹生産も長期低落傾向にある。また、栽培従事者の高齢化もこの傾向に拍車をかけている。

和歌山県では優れた品質の生果を出荷することに(ウメは例外ですが)特化した農業が、これまで進められてきたし、この形態は今後も継続されると思われるが、一方で、果物の加工や素材の研究、技術開発などの産業、関連する食品加工機械、容器・包装機械特などの産業など、食品関係の二次産業がほとんどない状態である。また果物の機能性に関する研究や健康福祉との関連づけなど、三次産業に必要な情報、データの蓄積・発信なども大変遅れている。

今後はこれらの問題点を正確に把握し、グローバルな視点も含めた様々な見地から和歌山の産業の将来を検討し、総合的な産業構造の変革、イノベーションを起こすことが必要ではないかと思われる。これらは産学官の連携で、大きな方針を立て進めなければならない事柄で、大げさに言えばこれを基盤として、和歌山県の生き残りをかけることになると考えている。フルーツバレーはこのような果物を中心とした一次、二次、三次産業のクラスター地域を指している。諸外国ではこのような食品を中心とした産業クラスターが構築され、成果を生み出してきている。

フルーツバレーへの道には産学官の連携が必要であるが、それぞれに問題点を抱えており、例えば、和歌山県は近畿地方で、唯一農学部のない県であり、農学、食品の研究教育の基盤となる場所がない。また、食品研究に従事する公設試験研究機関もごく近年拡充されてきたので、今後のアウトプットを期待したい。何にもまして、和歌山の農業に対する危機感を共有し、これを打破する方策を生み出すことが肝要である。